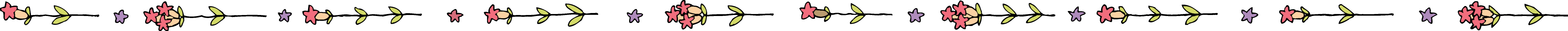
|  |  |
| --- | --- |
| **２０１６年１０月**    **全養サだより** | **全国養護教諭サークル協議会事務局**  **〒527-0166　滋賀県東近江市愛東外町７１０**  **池田真理子　℡　0749-46-1747**  [**http://zenyousa．la.coocan.jp/**](http://zenyousa．la.coocan.jp/) |

風に揺れながら道端に咲く可憐なコスモスの季節から、朝夕の空気がひんやりと冷たく感じる季節となりました。

　さて、実行委員会形式での全養サ研究集会も３回目となりました。東日本ブロックでは２回目となり、会場も一昨年同様、日本体育大学をお借りして開催することができました。



*参加者一人ひとりが主人公*

*第４６回集会　大成功！*

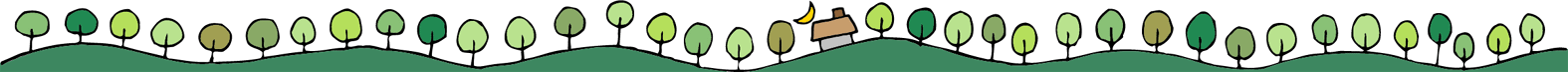
*参加人数２７５名！！*

　　　東京　日本体育大学世田谷キャンパス　　８月６日～７日

　かつての集会と比べれば参加者数は減ってきていますが、全養サでの学びや仲間とのつながりを求めて集う集会は全養サの財産です。

　他では味わえない全養サの学びで、心地よい疲れと充実感で、からだも心もいっぱいになった

２日間でした。



第１回全養サ研推委・スタッフ・事務局合同会議報告　９月４日　日体大

**１　第４６回全養サ研究集会総括**

**【全国事務局総括】**

1. **サークル代表者会議**

１７サークルの代表者が参加。年1回の代表者が集まる会議なので、各サークルの意見交流を大事にしたい。会議の進め方や持ち方については今後の検討課題だと考える。

1. **開会集会・記念講演**

　　記念講演の香山リカ氏は「保健室」に連載中ということもあり、わかりやすく私たち養護教諭へのエールも込めて語っていただいた。頑張りすぎる養護教諭に、「自分のことを肯定し、チャージしていくこと」と温かいメッセージがもらえた。若いメンバーの司会進行で全体のムードを和らげた。研推委員長の基調提案は、この間の情勢がわかりやすく語られた。

1. **講座**

今回も昨年と同様に４つの講座（・養護教諭の仕事・憲法・ジブリ・足育）を企画し、それぞれ内容も好評であった。今後は参加者数に見合った講座の数を設定していきたい。

1. **交流の場**

　　一昨年に「私学・高校交流の場」を実施し、昨年は私学、高校にこだわらず「おもてなし・

　交流の場」として神戸「輪の会」の松本さんを中心に実施してもらった。

　　今回は教材、教具をサークル員からお借りして展示も行った。参加人数は少なかったが、ざ

　っくばらんに話ができ、展示物も好評だった。その時々の状況でこの場をどう設定していくか、考えていきたい。

1. **分科会打ち合わせ**

スタッフの会場係と仕事の内容等が事前に確認できたことが良かった。今後も引き続き行っていきたい。事前打ち合わせが各会場で実施できたことは、翌日の分科会運営が安心して進められることにつながった。必要な機器も確認することができた。

1. **分科会**

分科会は全養サの『生命』であり、最も大事にしたいところである。運営については研究推進委員を中心にすすめていくが、参加者の声も大事にしながらすすめていきたい。ここ数年、事務局が分科会へ参加しきれていない状況があるため、参加できる体制を考えていきたい。レポーターの資料準備枚数や送付、使用機器の件については確実に連絡がいくよう、再度、研推で確認をお願いしたい。今後、参加者数に見合った分科会構成も検討していく必要がある。

1. **閉会集会**

昨年から、開会集会から閉会集会に実行委員長の挨拶を移動させたが、今後もこのやり方で行っていきたい。時間的には夕方からの開始となるため、遠方からの参加者には時間的に厳しいと思うが、できるだけ短時間でコンパクトにまとめて実施していきたい。

1. **販売・保育・掲示板**

　ＯＧの協力なしではできなかった。販売・保育についてはあった方がいいとは思うが、今後についてはその時々の状況に応じての検討が必要である。今後も続けていくのであれば、ＯＧの協力なしでは難しい。開催会場の条件で販売場所の設定や時間的な問題や、予算や人的な問題もある。

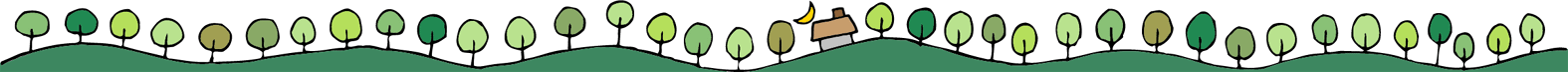
　昨年から掲示板での速報をＯＧの協力のもと行っている。今回は、模造紙６枚分の掲示板を作ってもらい、大変好評であった。

1. **全体を通して**

・これまでの反省をもとに、工夫しながら実行委員会の回数を減らしたが、スムーズに進めることができた。一昨年と同じ会場で慣れていたことも大きかったと思う。人的な面では日体大の学生さんやＯＧの応援も力となった。

・今後も事務局と実行委員の役割分担をどのようにしていくか、集会中の実行委員への連絡、打ち合わせ等、検討しながら進めていきたい。そのためにはマニュアル化できる部分は引き継いで使えるようにし、見てすぐわかる手引きの作成や、事前に役割について十分に理解、確認して進めていかなければならない。１年で準備ができる研究集会にしていけるように今後も考えていきたい。

・文科省、東京都教育委員会の後援が取れなかったことは残念だったが、東京都私立幼稚園連合会、東京私立初等学校協会の後援はしていただけた。今後も後援申請についてはどういう団体に申請していくかも検討し、引き続き働きかけていきたい。



**【研究推進委員会総括】**

1. **分科会について**

・どの分科会も工夫して進められていて、途切れることなく質問や発言がなされ、活発に討論が行われていた。

・拍手があり、笑いがあり、笑い声があるなかで、リラックスして進められている分科会もあった。

・参加人数が２０～４０人くらいで、お互いの顔を見ながら討論が進められてよかったのではないか。

・「参加者に助けられた」という声と、「参加者が変わってきている」「ベテランと若手の間の参加者がなく、討論をどちらに合わせるか迷った」という声があった。

・懐かしい顔に出会えたり、発言に助けられたり、サークルの良さを実感した、という声もあった。

・藤田和也先生が健康文化や自治の話など、基本の学びにつながる発言をしてくれて助けられた。これまでどの分科会にも討論の核になる発言をしてくれる参加者がいて助けられてきたが、参加人数が減り、事務局も分科会に入り込めない忙しさのなか、討論を深める難しさがあるように感じる。

1. **レポートについて**

・どのレポートも、サークルでの学習や研推とのやりとりを経て、たいへん学びごたえのある内容になっていた。それが各分科会での充実した討論につながった。

・レポートが２本あると、１本目に討論した視点で２本目も見ることができるので討論が深まった。

・レポートが１本だったが、レポーター自身も参加者も満足できる内容だった。

・「レポートが聞きたい」と分科会を替わって来た参加者がいた。

・レポートの集め方は再確認が必要。聞きとりはもちろん、サークルからも積極的にアピールしてきてほしい。

1. **分科会運営について**

・会場係の学生さんが、マイク廻しや空調管理、重い机と椅子の移動などに大変よく動いてくれてありがたかった。討論にも参加し、一緒に学んでもらえた。

・基調提案で、討論の手順や進め方を話し、見通しをもてるように工夫した。

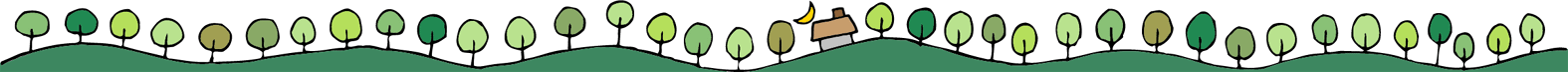
**２　「保健室」について**

　スタッフの大変さは理解しつつも、「保健室」は全養サの大切な機関誌なのでミスのないようにしてほしい。そのため今後ミスがおこらないようなチェック方法やミスがあった場合の対応について話し合った。

・185号「ほっとタイム」の執筆者のサークル名の誤りについて

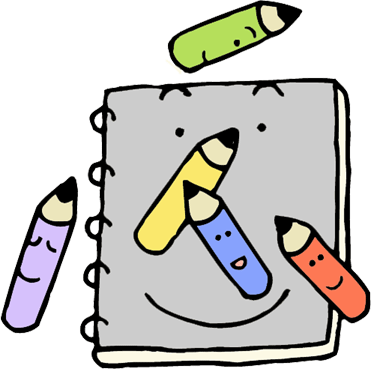
　→１８６号で訂正とお詫びを掲載しました。「岡山かたつむり」ではなく「岡山いちごつなぎ」です。

・『保健室』連載のＱ＆Ａは、若い養護教諭に全養サ精神を伝えるコーナーとして開設した。原点に戻り、研究推進委員の方にも協力していただき、Ａの執筆者を考えていきたい。



第１回「５０年のあゆみ」編集会議報告　９月３日　日体大

**【編集委員会メンバー】**編集委員長　中込

　○事務局（池田　菱崎　小島　渋井　渡辺　中込）

　○研推（中村　塩澤　林）

　○保健室スタッフ（福田　室井）

　○研究協力者（藤田　野井　山本　鹿野　舟見）

**【内容について】**

参加者よりどんな５０年のあゆみにしていくか、意見交流をした。

　・「５０年のあゆみ」発刊にあたって　どんなテーマにしていくか。

　・全養サ運動の５０年の歴史を振り返る。５０年の節目としておさえる。

　・「４０年のあゆみ」から、１０年間の「分科会」、「保健室」、「書籍編集委員会」のあゆみの流れ

　・５０年のあゆみ年表　東日本大震災、５０年の歴史を入れる。

　・実行委員会形式での全養サ研究集会について

第４７回全養サ研究集会　西日本ブロック集会

第１回実行委員会報告　７月１６日　岡山ピュアリティまきび

**【期日】**

シンボルマークは、全養サのシンボルマークのバックに岡山らしい風景を入れます！

　２０１７年８月５日（土）～６日（日）

**【場所】**

　岡山　ピュアリティまきび

**【記念講演】**

　山極寿一氏（京都大学総長・ゴリラに見る人間社会の起源）に交渉中

**【講座】**　参加人数や経費を考慮して３つの講座を考えている。

　・養護教諭の仕事→松尾裕子氏（大阪）決定

　・虐待→橋本和明氏（花園大学）決定

　・発達と運動→八木隆行氏（こどもの運動環境研究所）決定

**【その他】**

○実行委員長は全国事務局の小島三和子が担当。

テーマ

地域に根ざした健康教育の創造をめざして

○経費削減のため実行委員会の回数を４回とした。

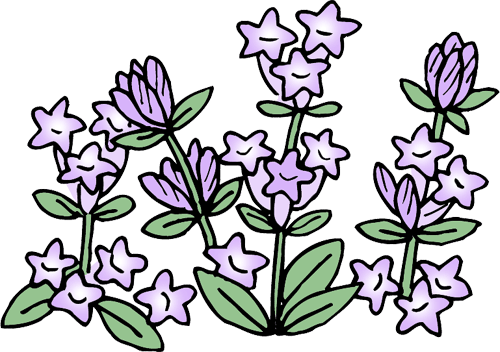
○実行委員担当サークル

　かたつむり（岡山）　いちごつなぎ（岡山）

　てのひら（愛知）　京都健康教育サークル　大阪健康を守る会サークル連絡会　輪の会（兵庫）

　宝塚養護教諭サークル（兵庫）　山口サークル　事務局、研推の西日本メンバー

○保育、情宣、販売、夕食交流会の実施を考えている。

○交流のひろばの持ち方については検討していく。

　・講座終了後という時間設定で帰宅する参加者が多い。

　・人数が集まらず交流と言い難い。

　・私学、高校の養護教諭にとっては貴重な場である。

　・資料展示は好評で参観者も多い。